

小学校の事例 南区 豊滝小学校

農園で栽培した野菜が、学校行事に大活躍。土とふれあいながら環境を学ぶ。

「なかよし農園活動」で地域・人・自然との関わりと食や豊かな心を育てることを学ぶ。学年ごとにテーマを決め、地域の農家の方をゲストティーチャーとして招き、直接指導で楽しみながら取り組む。



はじめに 畑おこしから収穫・調理までを体験

本校では全校で学校農園を使って野菜などの作物を育てる「なかよし農園」を行っている。目的は、「栽培活動をととした様々な体験活動や人との交流の中で、地域の人、地域、自然との関わりやよさを理解したり、食物の働きや栄養についての理解を深めたりしながら、望ましい人間関係や豊かな心を育てる」こと。春は畑おこしと苗植え、夏は水やりや雑草抜き、秋は収穫をしている。収穫した野菜を調理して食べるという活動にも、生活科や総合的な学習の時間を利用して全校で取り組んでいる。



全校での苗植え

内容 地域の農家の指導で楽しく活動

1～2年生は生活科の30時間で、「ポップコーンづくりの名人になろう」というテーマで取り組んでいる。3～4年生は総合的な学習の時間の39時間で、「育てる野菜について調べよう、育てよう」というテーマに、5～6年生は36時間で、「栽培活動しよう(畑おこし、種まき、世話)」というテーマに取り組んでいる。

農園で栽培しているのは、ジャガイモ、トウモロコシ、ミニトマト、さらには、エダマメやアズキ、イネなど。地域の農家夫婦をゲストティーチャーとして招き、土の耕し方など、専門的なことを含め指導してもらっている。

栽培方法は本やインターネットで調べることができるが、農作業は直接教えてもらわなければ難しい点が多々あるため、ゲストティーチャーの存在が大きな

力となっている。また、子供たちはゲストティーチャーが大好きで、楽しみながら栽培活動を行っている。



5・6年生の田植え

今後 各種行事で収穫物を調理・提供

収穫した野菜は、8月の全校宿泊学習のカレーライスや、PTAの餅つき大会のおしるこなど様々な行事で活躍している。また、スイカやミニトマトから顔を作るなどの「盛り付けコンテスト」も行われ、その写真が廊下に掲示されている。さらに、食べるだけではなく、9月に行われる交通安全PR活動にも野菜を使用。子供たちがドライバーへジャガイモとメッセージを渡し、安全運転を呼びかけている。

自分たちがつくった野菜がこのように活躍することは子供たちの栽培へのモチベーションとなり、活動の継続につながっている。



「盛り付けコンテスト」の作品

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

今の時代、必要な情報はインターネットなどで簡単に得られ、また、プリントアウトしただけで「わかった気になる」人が多いように感じます。学習の上でも遊びの上でも、正しく本当に必要な情報を選択し自分の言葉に直して解決していく力が、これからの社会を生きていく上でますます重要な力になっていくと思います。